

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は職員皆で考えたものである。各自が名札に入れて携帯し、事務所に掲示、チームカンファレンスでも確認する機会を設けるなど、常に意識できるようにしている。管理者、職員共に理念を共有し実践に努めている。	ホーム独自の理念は開所当初に職員全員で考えた理念であり、現在も受け継がれている。「かたくりの郷 理念」としてステーションやトイレに掲示され、日常的に目につくようにしている。会議資料等にも添付し、名札にも入れて携帯して常に意識し業務に就いている。理念にそぐわない言動があった場合には直接話を聴くようにし、注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	学校行事や地域の文化祭、敬老祭などに参加したり、近隣施設と合同で行う防災訓練には地域の関係者にも参加して頂いている。また、地域の方や以前の入居者家族から季節の野菜などの差し入れをいただくなど交流も続いている。	日々の暮らしの中で散歩に出掛け、日頃から声をかけたりかけられたりして挨拶をしている。地域の文化祭や敬老祭等に参加し、また、近隣施設や地域住民らと合同で防災訓練にも参加している。地域の方や以前の入居家族から野菜や果物、漬物等のおすそ分けをいただく機会もあり交流が続いている。更に、白馬村と小谷村の認知症カフェに参加する村民の方々がホーム見学に来られるなど、日常的に地域の人々との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『認知症介護について語り合う会』として、ご家族や地域住民、福祉関係者と共に認知症について考え話し合う機会を持ったり、ご利用者との交流会も行っている。また、近隣地域の認知症カフェをお招きしてホームの見学会を開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、状況報告、活動報告を行うと共に委員の皆様からのご意見を活かしサービス向上に努めている。委員の方々の積極的な関わりにより地域との交流へと繋がっている。	運営推進会議は奇数月に開催している。参加メンバーは利用者家族、2つの区の区長と民生委員、2村の役場職員、包括支援センター所長等、多くの参加者が集い、ホームの活動、利用者状況等の報告や情報交換を行い、サービスの向上に活かしている。また、家族会「かたくりの会」との合同開催も計画し、委員の方々と交流する機会も持ち、運営に助言を頂いたり、ホームの活動に共感しての励ましの言葉なども頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場福祉課の職員は運営推進委員の一員であり、情報交換しながら協力関係の構築に努めている。施設の現状もご理解いただいております。運営に関する様々な相談にも乗っていただいております。	村の福祉課職員は運営推進委員でもあり、ホームの考え方や実情を知ってもらっている。介護認定の更新等には認定調査員の来訪があり利用者の生活の様子等を伝えている。また、介護相談員の来訪もあり、利用者から表出された意見・要望を共有し運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と合同の高齢者虐待防止委員会による研修会を年2回行い、身体拘束は行わないという意識が職員に認識されている。現在は状況により玄関の施錠をしているが、ご利用者の要望に合わせて職員が同行して外出できるようにしている。現在身体拘束の該当者はいない。	高齢者虐待防止委員会があり併設施設と合同の研修会を年2回実施し、身体拘束の内容とその弊害を認識し、施設全体が身体拘束をしないケアを実践している。家族とは日頃から一人ひとりに予測されるリスクについて話し合う機会を持ち、ホームの方針を知っていただくようにしている。目の行き届かない玄関は施錠をしているが、利用者の要望や行動に合わせて柔軟に対応している。	

かたくりの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設と合同研修会を年2回行ない、日頃のケアを振り返る機会となっている。気になることがあればチームカンファ等でお互いにいつでも意見を出し合えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設と合同研修会を行っており、権利擁護について学ぶ機会を設けている。現在成年後見制度の対象者が1名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはご利用者やご家族等の不安や疑問が残らないように話を伺い、ご理解、ご納得をいただけるように丁寧な説明を心掛けている。また、改定や加算等の変更があった際は口頭及び書面で説明しご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年顧客サービス委員会によるアンケートや家族会にて意見要望を伺う機会を設け、ケアやサービスを振り返り向上させる機会としている。事務所やホーム内にご意見箱も設置している。コロナ禍で休止していた介護サービス相談員の訪問も再開しており、ご意見を反映できるようにしている。	ホームでは様々な方法で、利用者や家族等から意見を収集している。顧客サービス委員会では毎年アンケートを実施し、また、意見・要望を伺う機会として家族会も実施している。ホーム内には意見箱が設置されており、介護サービス相談員の来所等もあり、ケアの振り返りやサービスの質の向上の機会として活用している。毎月の受診では施設管理者でもある主治医と利用者や家族が直接話をする機会もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、上長に意見や提案などを直接話せる個人面談の機会を設けており、全職員が対象となっている。	職員会議やミーティング、カンファレンス等で、変化する利用者や家族の状況をホーム職員全体で共有している。人事考課制度があり、定期的な評価や個人面談等を行っている。管理者や介護主任などには現場職員の意見を十分に聴こうとする姿勢があり、日常的に関わりを持ち、共にホームの運営に携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に職員それぞれが自己評価を実施。自身の目標に対しての実績や振り返りを行い次年度に向けて新たな目標を掲げ仕事への向上心に繋げている。年一回、上長との個人面接も実施され直接の意見交換の場も設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量に応じ外部研修への参加も推奨している。施設内でも外部講師を招くなど多様な研修会の機会がほぼ毎月設けられており、自己研鑽に努めることを支援している。		

かたくりの郷

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北アルプス圏域のグループホーム連絡会に参加し、情報交換や意見交換を行い、そこから得た気付きを日頃のケアに活かすよう心がけ、サービスの質の向上に繋げるよう努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活を尊重しながらご本人の思いに寄り添うケアを心掛けている。ケアマネや担当職員を中心に深い信頼関係の構築に努めている。ご家族や前ケアマネ、関係機関からも可能な限り情報を得るようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際だけでなく、見学や事前相談の際からじっくりとお話を伺う時間を設けている。ご家族等の思いを共有、理解し、安心してサービスを利用していただけよう信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の中からその時点でのニーズを適切に評価し、併設施設、他職種にも相談、協力し、柔軟なサービスが提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるように、『お互いに手をつなぎ合い、喜び、悲しみを共有できるグループホーム』を目指している。自宅で家族と過ごすように日常の何気ない時間を大切にして、共に暮らす関係を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはホームでの生活の様子や体調の変化など面会時や電話でこまめにお伝えし、都度相談しながらご家族と共に支えていくことを意識している。また、ご家族とのやりとりは個別に記録に残し、全スタッフが把握できるようにしている。月一回発行しているかたくり通信も大変喜んでいただいている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への同行訪問や地域の行事への参加などの外出支援、併設施設に馴染みの方を訪ねるなどしている。また、親戚や友人の面会や電話、手紙なども遠慮なく続けていただけるように働きかけ、関係継続の支援に努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人、場所との関係性が途切れないように、電話の取次ぎ、手紙やハガキ等の返信の支援、自宅への同行訪問や地域行事等の参加支援、外出支援等、ホームに入所しても今までの生活の延長線上で生活が継続できるように取り組んでいる。

かたくりの郷

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を考慮しながら、共に生活する仲間として関わっていただけるよう、社会性を継続していただけるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じてサポートを続けている。特に併設施設へのお住み替えの場合はご本人、ご家族に会う機会も多くあり、フォローできるように努めている。実際に退居後も時々ホームに寄ってくださるご家族もおられ、スタッフの励みにもなっている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からの情報を職員全員で共有し、希望、意向を把握できるよう努めている。意思疎通が困難な方においてもご家族からの情報や毎日の関わりの中でその方の立場になって考える事をチームで心がけている。	利用者の約半数が思いや希望を表出できる。困難な場合には利用家族からの聞き取りや毎日関わる中で、その方の立場になって考えている。集団では中々表出できないことでも、お茶のみの場面や職員と1対1になった時にふと洩らすことがあり、チームでも共有している
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの物などご本人との会話の中から聞き取ったり、ご家族や過去利用していた関連施設などからも可能な限り情報収集して把握できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子等を記録に残し、職員間で情報を共有している。一人ひとりの気持ちを尊重し、新しい発見や小さな変化にも気付けるよう努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からも意向を伺い、ケアカンファレンスにてモニタリング、アセスメントを行い日々の気付きや変化などを話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	職員は2名から3名の利用者を担当し、身近で支える職員こそが知り得る新しい発見や小さな変化を共有している。毎月ケアカンファレンスを実施し、アセスメントとモニタリングを繰り返し行い、利用者本人や家族の意見・要望なども受け止め、一人ひとりの利用者の現状に合わせた介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルや電子カルテに生活の様子や健康状態などを記録に残している。気づきや状態の変化は申し送りや連絡ノートでも確認できるようになっており、情報の共有に努め介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設の利点を活かし、職員や医師、看護師、管理栄養士等、併設の施設と連携し、柔軟な支援やサービスを提供している。作業療法士の訪問もあり、必要に応じて相談できる。	

かたくりの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内行事に地域の方が関わって下さったり、ボランティア、民生委員、併設施設や近隣施設との交流、地域行事への参加等、地域の方々のご協力をいただきながら生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全てのご利用者が施設管理者でもある併設病院の医師を主治医として希望されており、毎月の受診はご家族が同行されて心配事や要望なども直接お話しいただいている。他科受診に関しても主治医やご家族と相談しながら必要に応じて受診できるよう支援している。	利用契約時に、医療体制及びかかりつけ医について説明を行っている。本人・家族が馴染の医師による継続的な医療を受けられるように支援をする体制があり希望を聞きながら支援をしている。現在、入居されている全利用者が併設の施設内病院の医師を主治医としている。ホームを含めた複合施設では近隣の市町村にある総合病院等、複数の医療機関との連携を密にしており、訪問看護ステーションや歯科の往診もあり、必要に応じて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化は小さなことでありリアルタイムで主治医に相談でき、急な受診にも対応している。診療時間外においても医師とは24時間連絡が取れるようになっており、必要に応じて併設施設の看護師の支援も受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医のほか、入院先連携室やご家族とも情報交換し安心して適切な治療を受けられるよう努めている。 また、連携室と連絡を取り合い治療経過や現状を把握し、今後の方針等についても相談することでスムーズに退院できるよう積極的な支援を行っている。必要に応じて退院前カンファにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に「利用者の重度化及び看取り介護に係わる指針」に基づいて説明を行い、ご本人、ご家族の意向を確認し契約を交わしている。ご本人の状態に変化が見られた場合は、医師、職員、ご家族、出来ればご本人とで話し合い、改めて支援方針を決めることになっている。	入居契約時に「利用者の重度化及び看取り介護に係わる指針」に基づいて施設の方針を説明し同意を得ている。利用者の状態や状況に変化に応じて繰り返しの話し合いが行える仕組みがあり、入浴や食事を摂ることが難しい状況になり重度化を迎えた時には家族、医師、ホーム職員で話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上、ホームとして出来る最大限の支援に取り組み、医療機関や他施設への住み替えも含めた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設と合同で、救急法の他、事故発生時や感染対応の研修を行い、緊急時の対応力を高めている。チームカンファ内でも定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で年に2回の避難訓練を実施しており、隣接施設との合同訓練も行っている。ホーム内でも職員間で避難方法や対応の周知を図っている。自治体、地域消防団、地域住民、隣接施設と災害時における相互協力体制の協定を結んでいる。備蓄品(食料・飲料・衛生用品等)の準備もしている。	地域に応じた災害を想定して、併設の施設と合同で避難訓練を年2回実施している。また、隣接施設や地域住民、自治体、地域消防団とは相互協力体制の協定を結んでおり定期的な避難訓練を実施し、ホーム内では消火器や避難路の確保と避難方法の周知、非常用の水、食料の備蓄をしている。	

自 己	外 部	項 目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格を尊重し、一人の人として関わるよう、職員間で声を掛け合えるよう意識している。ご利用者の人権、プライバシーの保護についても気になる事があればチームカンファ等で話し合うようにしている。	利用者の私生活上の自由が守られるように、本人の気持ちを大切に考え、職員間で声を掛け合い、さりげないケアを実践している。集団生活の中の、特に、入浴や排泄の場面では羞恥心への配慮も欠かさずに行っている。居室は希望により鍵が掛けられようになり、共同生活の中でもプライバシーの確保に努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の自己決定を促すような言葉かけや働きかけを心掛けている。自己決定の難しい方でも言葉のニュアンスや表情、行動などを見て想いを汲み取れるよう努めるなど工夫している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思やペース、体調などを考慮し、一人ひとりに合った過ごし方を提供できるよう柔軟に対応している。職員間で情報共有し、その人らしい暮らしに近づけられるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活の中での習慣等を大切に、好みや意向を伺いながら支援している。職員が介助するだけでなく、ご利用者自身の意欲が高まるように声掛け等も工夫している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年2月より、昼食のみ併設施設の配食サービスを利用している。その中に同封されている一言メッセージと献立表は、食事前に皆で読み上げるなどして楽しんでいる。朝食・夕食は施設内で作っており、準備や後片付けなどできる事を手伝っていた。地域の方やご家族から差し入れされた季節の食材や郷土料理を取り入れたり、時にはご利用者と相談して外食やデリバリーを利用するなど生活の楽しみの一つとなっている。(現在は感染症対策としてスタッフは一緒に食事していない)	昼食は併設の施設よりの配食のサービスを利用しているが、食事と一緒に届けられる「一言メッセージと献立」が食事を楽しめる一つの支援に繋がっている。朝食、夕食はホーム内で調理し、利用者にも役割をもって手伝っていた。旬の食材や差し入れされた野菜、果物等を取り入れている。ホームではおやつ時間を充実させ、「やしようま」「蘭玉」「おはぎ」等の行事食をとり入れ、誕生日にはケーキをつくり全員でお祝いをしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量水分量を記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。必要に応じて刻み食やミキサー食にも対応している。食事の好みはもちろん、健康状態や体重なども考慮して栄養バランスや水分量など主治医や併設施設の管理栄養士にも相談しながら調整している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食後に声掛けを行い必要に応じて見守り、または介助をしている。義歯が綺麗に洗えない方もまずは自分で洗っていただき、後ほどスタッフが洗い直すなどして衛生管理に努めている。	

かたくりの郷

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のリズム、サイン、失敗の傾向等を記録して情報共有し、ご利用者それぞれのタイミングでトイレでの排泄ができるよう支援している。また、その方の能力に合わせて環境を整備するなどして自立に向けた支援も行っている。	一人ひとりの排泄のパターンに応じた個別の支援を実践している。見当識を助けるため床にテープを貼ったり、イラストや写真を貼るなど、視覚的誘導によりトイレの場所を分かりやすくし、排泄の自立を支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無、便の状態の確認を行い、食事内容や水分量、運動量も考慮しながら日々の観察を行っている。必要に応じて主治医に相談し、薬の調整などを行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的にはお一人ずつ、職員が付き添ってゆっくり入浴していただいている。1日の中でだいたいの入浴時間は設定しているが、ご本人の希望や体調を見ながらできるだけ希望に沿って対応している。ご本人と相談し、曜日を決めて入浴している方もおられる。	一人ひとりの生活習慣や希望や体調を見ながら入浴の支援を行っている。曜日を決めてカレンダーに印をつける方、好みのシャンプーを使う方等、一人ずつゆっくりと入浴できるように工夫している。また、羞恥心等にも配慮しながら一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。伝統行事である「菖蒲湯」「ゆず湯」等、季節のお風呂で入浴を楽しむ機会も設けている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて身体状況を把握し、安眠、休息が出来るよう支援している。日中は居室だけでなく、和室やソファも活用し、それぞれが安心して休めるように工夫している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの指示に従い服薬の管理を行っている。処方薬をまとめたファイルを作成し、ご利用者がどんな薬を飲んでいるかを把握できるようにしている。状態変化等があればリアルタイムで主治医に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に合った仕事をお願いしたり、生活歴や好みに合わせたイベントやレクなどの提供にも努めている。ご本人からはもちろん、家族や友人などからも情報を得ている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩や庭仕事、外気浴、月に1度の定期受診など外に出る機会がある。以前は施設でもドライブや外食、地域のイベントなどに出掛けていたが、感染症予防などの諸事情がありなかなかできていない。ご家族との外出や外食、自宅訪問などは積極的に勧めている。	ホーム周辺の散歩や外気浴等で短時間でも戸外へ出る機会を作っている。利用者は毎月受診の機会があり、家族と出かけて、外食などもしている。また、家族の協力を得ながら自宅の様子を見に一時帰宅したり、ドライブに出掛けている方もいる。ホームとして、今後、感染症予防や安全に留意しながらドライブに出掛けたり、地域行事に参加したいという意向を持っている。

かたくりの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金は施設でお預かりしておらず、お金を使う場面はない。必要な物があればご家族に依頼して買って来てもらっている。ご本人の希望で現金を持っている方もおられたが現在該当者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な人との繋がりを大切にする為にも、可能な方には電話や手紙を書く機会を作っている。 ご家族や友人などからも気軽に電話していただけるように声をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の花やイベントでの写真を飾り、整理整頓を心がけ、居心地の良い空間の提供を心がけている。ご利用者の好みに合わせてテレビや音楽を楽しんでいただいている。温度、湿度は記録をすることで職員も意識できるようにしている。	木造で平屋のホームは玄関を入るとどこか懐かしさを感じる雰囲気があり、整理整頓がされている。利用者が集うホールには季節の花が活けられ、行事等で撮った写真が掲示されている。ホーム内には自然な光が差し込み適温で保たれ、居心地よく過ごせる環境となっている。訪問調査当日も利用者の好みのテレビ番組や音楽が流れ、落ち着いた様子で過ごされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールや和室、ソファ、テレビルームなども活用し、それぞれが過ごしやすい場所で自由に心地よく過ごせるよう支援している。また、ご本人のその時の心身の状態にも配慮して工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望を取り入れ、馴染みの家具等を置いている。担当スタッフが中心になってご家族とも相談しながら、ご本人が過ごしやすく居心地の良い空間となるよう支援している。お仏壇を持ち込んでいる方もおられた。	居室づくりは担当職員が利用者や家族と相談しながら、本人が居心地良く暮らせるようにしている。居室には大切な家族の写真や馴染の家具、使い慣れた物、好みの物などが置かれ、利用者が生活してきた足跡の一端を見ることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所がわからない方の為に壁に案内を掲示するなど、不安や混乱が少しでも軽減されるように工夫している。和室への小上がりなど転倒リスクの高い所もあるが、単に使用を禁止するのではなく安全に使用できるように滑り止めを設置するなど、ご利用者が自由に自立した生活を送れるように支援している。		